

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件(附)
別冊ヲ省略ス

(欄外註記)

「大正九年十月六日樞密院本會議ニ於テ清浦副議長ヨリ本報告ノアリタル後直ニ全会一致ニテ可決(藤井)」

附 米國ノ対独平和条約批准拒否問題

一〇 一月九日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

対独平和条約批准問題ハ次期大統領及上院議員改選迄進展ヲ見ザルベキ旨ノ觀測報告ノ件

附記一 大正八年十二月三十日幣原大使發内田外務大臣宛電報第九一三三號

米國ノ対独平和条約批准問題ノ動向ニ関シ、メルベル、ストーン氏珍田大使ニ内話ノ件

二 大正八年十二月三十日幣原大使發内田外務大臣宛電報第九一六號

米國上院ニ於ケル対独平和条約批准ニ関スル留

一〇

一四

保案等ニ付グレー英國大使ノ談話報告ノ件

第一一號

(一月十一日接受)

当國上院ニ於ケル平和条約批准問題ノ形勢ニ付テハ昨年十一月往電第八一九號^(註)ヲ以テ大体ノ觀測ヲ稟報シ置キタル処爾來「ロツジ」氏一派ハ依然自党ノ威信ヲ示サンガ為メ少クトモ表面上ハ極メテ強硬ノ態度ヲ持シ當國人一般ニ米國本位主義(「アメリカニズム」)ヲ喜ブノ傾向アルニ乗ジテ巧ニ自派ノ主張ヲ擁護シ來レルガ民主党側ニ於テハ大統領病床ニアリテ久シク何等本問題ニ對スル意見ヲ發表セザリシ為「ヒッチコック」氏ハ上院ニ於ケル同党首領トシテ一時困難ナル立場ニ陥リタルモノノ如ク只條約ノ骨子ヲ破壊スルノ嫌アル「ロツジ」氏ノ留保案ニ對シテハ斷然強硬ニ反對スルノ態度ニ出ヅルト共ニ到底無留保批准ノ望ナキヲ看テ絶エズ妥協ノ余地ヲ存スルニ努メタリ昨年十一月留保附批准案並無留保批准案共ニ否定セラレタリト雖一般ニ之ヲ以テ條約最後ノ運命ヲ決シタルモノト認メズ殊ニ實業界ニ於テハ速ニ條約ノ批准ヲ必要トシ上院議員ニ對シテ益々強圧ヲ加ヘタルヤニテ「クリスマス」及新年休暇中ニ際シ有力ナル兩黨議員間ニ屢々私的會合アリ妥協ノ傾向漸ク

顯著ナルニ至リタルガ妥協ノ尤モ困難ナル点ハ結局第一、

留保案ニ對スル三大國ノ同意ヲ必要トスルノ条件、第二、

國際聯盟規約第十條、第三、英國自治領ノ國際聯盟會議ニ

於ケル投票數、第四、山東條項ナルガ如シ本使ガ消息通ノ

觀測ナリトテ伝聞スル所ニ依レバ「ロツジ」氏モ内実右第

一及第四ノ点ニ付テハ幾分讓歩ノ意嚮ヲ有シタルモ第二及

第三点ニ至リテハ妥協セズ殊ニ英國自治領投票數問題ニ関

シテハ反對意外ニ強ク英國ハ米國ト英國自治領トノ間ニ於

ケル紛争發生ノ場合ニハ其他ノ自治領及英本國ノ為各別投

票權ヲ主張スルノ意思ヲ有セザルコト「ロイド、ジョー

ジ」氏ノ演說ニ徴シ略々明瞭ナリトスルモ米國ト英國以外

ノ諸國トノ間ニ紛争發生ノ場合ニハ英國ハ英本國及自治領

各別ノ投票權ヲ利用シテ米國ノ主張ニ反對ヲ試ムルコトア

ル可ク從而右「ロイド、ジョージ」氏ノ言明ノミニテハ滿

足ナラズトノ議論アリ又國際聯盟規約第十條ハ米國憲法ニ

違反シ米國ノ主權ヲ無視スルモノナリトノ說頗ル有力ナリ

ト謂フ右消息通ノ觀測ナルモノガ果シテ肯綮ヲ得タルヤ否

ヤハ暫ク措キ大体ニ於テ妥協ノ氣運漸ク熟スルニ至リタル

ノ狀アルニ當リ一月八日「ジャクソン」記念日ニ於テ發表

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件(附)

セラレタル大統領ノ書翰ハ右氣運ニ一頓挫ヲ來シタルコト疑ヲ容レズ尤モ民主党議員中ニハ今尚條約ノ解釈的趣旨ニ限り留保ヲ以テ批准ヲ了スルノ望ヲ斷タザル者アリ又共和黨議員中ニモ極力批准ノ促進ニ努力スル温和派アリテ今後本問題ノ發展ハ尚遽ニ予期ス可カラズト雖民主党議員ノ大部分ニシテ大統領ノ意見ニ從ヒ結束スル以上ハ結局次期大統領選舉及上院議員改選ノ結果確定スル迄本問題ノ審議ス可キ望少ナキコトト察セラル英、仏、伊へ電報セリ

註 大正八年十一月十九日幣原大使發第八一九號ハ同年日本外交

文書第三冊上卷七六九頁第六二一文書

(附記一)

大正八年十二月三十日在米國幣原大使發内田外務大臣宛電報第

九一三號

米國ノ対独平和条約批准問題ノ動向ニ関シ、メルベル、ストー

ン氏珍田大使ニ内話ノ件

第九一三號

(一月三日接受)

在英大使發本使宛電報

第二八五號(極秘)

此頃巴里ヨリ來レル「メルベル、ストーン」氏ニ面會シタルニ其談話中參考ニ資スベキ点ヲ指摘スレバ左ノ如シ

一〇

一五

(一) 条約ニ対スル上院ノ行動ハ実ニ失望ニ堪ヘザルモ必ズシモ絶望ニ非ズ余ハ曩ニ出発前「ハウス」大佐、共和党全国委員長「ヘース」氏其他ト会食シ時局善後策ニ付協議ヲ擬シタルガ其目的ハ出来得ル限り留保ヲ解釈の程度ニ止メ兩党穩健派ヲ結束シテ批准ヲ計ルノ点ニアリトテ最近其秘書ヨリ接到セル電報ヲ示セリ曰ク

「会食連中、極力運動中、安心セヨ右大佐ヨリ伝言ナリ云々」

(二) 「ロッジ」ハ依然強硬ノ態度ヲ示シ居ルモ其選挙区「マ」州ニ於テ元上院議員「クレーン」ヲ中心トナシ反對ノ氣運益々結晶シツツアルハ事實ナリ

(三) 「ヒッチコック」ハ何分統率ノ才ニ乏シキ為「アンダーウッド」ヲシテ活動セシメタキ希望アリ又閣員中ニハ「グレゴリー」及「ベーカー」ヲ相談相手トナシ居レリ

(四) 「ロッジ」派如何様ニ彼此ノ議論ヲ唱フルモ其心底ヲ言ヘバ結局自家ノ党利ト「ウィルソン」ニ対スル腹癰セニ外ナラズ実ニ米國否世界ニ対スル罪人ナリ一面ニ於テハ大統領モ亦責任ノ一半ヲ負ハザルヲ得ズ蓋シ彼ハ経國ノ局量ヲ缺キ偏狹自主ノ性格ニ從テ事ニ当リタル結果今日ノ難局ヲ

右談話中「ストーン」ハ本使ノ問ニ対シ山東条項ニ対スル「ロッジ」ノ留保ハ勿論削除サルベキ旨ヲ答ヘタリ又「ランシング」現在ノ立場ニ関スル質問ニ対シ彼トハ一度モ面会シタルコトナク又必要ヲ認メズ彼ハ早晚辭職スルノ外ナカルベシト極メテ輕蔑的ニ評シ居レリ右内話ハ秘密嚴守ノ約束ノ下ニアルヲ以テ此点ハ精々御含ミ置キヲ請フ

(附 記 二)

大正八年十二月三十日在米國幣原大使宛内田外務大臣宛電報第九一六号

米國上院ニ於ケル對獨逸平和条約批准ニ関スル留保案等ニ付グレ
一 英國大使ノ談話報告ノ件

第九一六号

(一月三日接受)

十二月三十日英國大使「グレー」氏ニ面会セル処同氏ハ本使參考迄ニ内話シタキ事アリトテ近來當國上院議員側ヨリ講和条約批准ニ関スル「ロッジ」留保案中國際聯盟會議ニ於ケル英國自治領投票權問題ニ付意見ヲ求メラレタルガ自分ハ本國政府ノ訓令モナク右問合ニ対スル應對ニ甚ダ當惑セリ殊ニ山東問題ニ至リテハ一己ノ私見ト雖モ何等開陳スル事ヲ得ベキ地位ニアラザル事ヲ答フルト共ニ右意見ノ開

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各國トノ平和条約批准關係一件(附)

激成シタルハ覆フベカラザル真相ナリ從テ時局拾収ノ一大要訊ハ彼ヲシテ此際努メテ自制緘黙ヲ守ルノ態度ニ出デシムルノ点ニ在テ存スルハ勿論ナルノミナラズ此上ノ活動ハ其健康狀態上到底不可能ノコトニ属ス現ニ聞ク所ニ依レバ病名ハ thrombosis ニテ此際精神ノ昂奮ハ殆ド自殺ヲ意味スト云フ故ニ余等同志ハ曩ニ主治医ヲ介シテ大統領夫人ニ其事由ヲ説明シ此際絶対的精神ノ安靜ヲ保ツノ必要上第一其病中何等本問題ニ言及スルヲ避ケ第二尙後ノ局面發展ニ對シテハ飽迄信賴順応ノ方針ヲ取ルベキコトヲ説カシメ置キタルガ第一ハ希望ノ通り事實ニ現ハレタルモ第二ノ点ハ本人ノ異常ナル剛愎ニ顧ミ最モ焦慮ニ堪ヘザル所ナリ

(五) 先頃巴里行キノ途次當地ニ立寄り「ロイド、ジョージ」ニ面会シタル際同首相ハ上院ノ留保ニ對シ或ル程度迄同盟側ニ於テ不同意ヲ唱ヘザルベキ旨ヲ暗示スルモ亦局面展開ノ一方法ナルベシトノ意見ヲ述ベタルニ付自分ハ極力其危險ナル理由ヲ説キタルガ恰モ好シ「グレー」卿ヨリ同様反對ノ意見ヲ電報シ來レリ「クレマンソー」氏ニ對シテモ同様反對ノ意見ヲ述ベ置キタルガ右計画ハ全ク打消ノ姿トナリタルガ如シ云々

示ヲ避クルハ英國ニ於テ山東条項ニ對シ何等問題ヲ惹起スルノ意志アルモノト解スベカラザル旨ヲ明カニシ置ケリト語リ唯英國自治領投票權問題ニ付テハ幾分同氏ノ私見ヲ洩ラシ置キタルコトヲ暗示シタル後更ニ語ヲ次ギ最近倫敦ヨリノ報道ニ依レバ「ロイド、ジョージ」氏ハ今回英國自治領ガ國際聯盟會議ニ於ケル投票權ヲ有スルハ其ノ戰爭ニ對スル功績ニ顧ミ当然ニシテ右投票權ヲ放棄スル事ハ不可能ナルモ英本國又ハ其ノ自治領ト米國トノ間ニ國際紛争ヲ生ジタル場合ニ英國ハ本國及各自治領ノ為各別ノ投票權ヲ主張スルノ意志ナキ旨ヲ發表セル由ナリト附言セリ

本使ハ未ダ上院議員側ヨリ山東問題ニ関スル意見ヲ求メラレタル事無ク今ヤ条約批准問題ハ上院ニ於ケル政争ノ焦點トナレルニ際シ外國側ヨリ米國ノ批准ヲ促進セシメン為何等積極的行動ヲ取ルハ其ノ時機ニアラズト思考スル旨ヲ述ベタルニ「グレー」氏ハ之ニ對シ自分モ同感ナリ尤モ一國ガ本件留保案中自國ニ関スル事項ノミニ付自國ノ立場ヲ表明スルハ妨ゲ無カルベシト答ヘタリ

尚「グレー」氏ハ當國ニ於ケル右条約批准問題ノ前途ニ言及シ右ハ目下何等ノ判断ヲ下シ難ク恐ラクハ上院議員自身

一 同盟及聯合國ノ独逸勸告各國トノ平和条約批准關係一件(附)

ニ於テモ真実ニ確信ヲ以テ予測シ得ルモノ無カルベシト述ベタリ

次ニ本使ハ國際聯盟ニ關連シ日英同盟ヲ如何ニスベキヤノ問題ニ付「グレー」氏ニ於テ何分ノ考量ヲ加ヘラレタル事アリヤヲ問ヒ右ハ元ヨリ本使ガ一個人トシテ興味ヲ有スル問題タルニ止マリ何等政府ノ訓令ヲ有スルモノニアラザル事ヲ説明シタルニ同氏ハ自分ハ講和會議以來全然公的生活ヨリ隱退シ今回ハ國際聯盟ニ關シテ特ニ英米間ニ協議ヲ要スル事項ヲ処理センガ為メ特派セラレタル次第ナルモ遂ニ右協議ニ着手スルノ機會ヲ得ズシテ帰國スルノ止ム無キニ至リ帰國後モ右英米關係事項ニ付当局者ニ意見ヲ開陳スルニ止メ再ビ私的生活ニ入ラントスルモノニシテ日英同盟問題ニ付自分ハ未ダ考慮シタル事無キモ英國政府トシテハ追々篤ト考究スルノ必要アルベシトテ自己意見ノ開示ヲ避ケ唯同氏ガ日英同盟第二回更新ノ際ニ於ケル当局者トシテ懷旧談ヲ述ベタリ

因ニ同氏ハ三十日夜当地出發歸國ノ途ニ就ク予定

英仏伊ヘ輾電セリ

一一

一八

一一 一月十四日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

民主共和兩党ノ妥協ニ依リ平和条約ヲ批准ス
ベシトノ米國內ノ民論ニ付報告ノ件

第二二号

(一月十六日接受)

往電第九及一一号ニ関シ其ノ後「ブライアン」ハ引續キ妥協論ノ鼓吹ニ務メ「タフト」モ新聞紙ニ所見ヲ發表シテ之ニ賛同ノ意ヲ明カニシ尚議會及一般言論界ニ於テモ此ノ際妥協ニ依リ速ニ条約ヲ批准スルヲ可トスルノ説勢ヲ得ルニ至リタル処昨十三日全國ニ於ケル宗教、教育、商工業、農業婦人団体及平和強制聯盟等合計一千万ノ會員ヲ有スル二十六団体ヨリ Oscar S. Straus ヲ總代表ニ挙ゲ大統領及上院ニ対シ此ノ際關係各國ト再交渉ヲ要セザル程度ノ留保ヲ以テ速ニ条約批准ヲ希望スル趣旨ノ陳情書ヲ提出シタル為益々妥協熱ヲ煽リタルガ如シ右陳述書提出ノ際「ロツジ」ハ代表員ニ向ッテ曩ニ上院多數ノ同意ヲ得タル留保案ナルモノハ大統領ト極端派トノ妥協帰着点ト認メ居ルモノナリシモ今後民主黨側ヨリ一定ノ対案ヲ提出スルニ於テハ尚考量ノ余地アルベシト言明シテ妥協ノ意アル事ヲ示シ又

「ヒッチコック」ハ昨今日日ニ兩派ノ意見接近シツツアリ

現在ノ空氣ハ昨年十一月批准投票前ニ比シ著シク改善セラレツツアリト述べ尙民主黨ハ大統領ノ同意シ能ハザル提議ニハ賛同シ得ザルモ其ノ同意ヲ得ベキ帰着点ヲ發見シ得ル見込アリト言明シ且両氏共ニ条約批准問題ヲ以テ党争ノ具ニ供スルノ意志無シト断言セル為世人ヲシテ一層妥協ニ望ヲ嘱セシムルニ至レリ將又前記団体運動者ノ一人トシテ來華セル「インデペンデント」主幹「ハミルトン」、ホールト「十四日本使ヲ來訪シ同人ハ之迄妥協問題ニ関シ悲觀シ居リタルモ昨日以來大イニ勢ヲ得タリト語り目下ノ処最大ノ難關ハ聯盟規約第十条及英國自治領投票權ノ二点ニシテ就中聯盟規約第十条ニ付テハ到底單純ナル条約註釈の趣旨ノ留保ニテハ妥協成立ノ望無キニ付政府側ニ於テ幾分讓歩スルノ外無カルベシト云ヒ又山東条項ハ(米國上院ハ日本政府ガ其ノ責任アル当局ノ言明セル趣旨ニ依リ膠州灣ヲ支那ニ還附スルモノナリトノ了解ノ下ニ該条項ニ同意ス)トノ程度ニテ折合ヲ見ルナラント附言シ尚共和黨ハ日日ニ加ハリツツアル實業界ノ圧迫ニ余儀無クセラレ其ノ態度ヲ改ムベキニ付確カニ妥協ノ望アリトノ樂觀的觀測ヲ述ベタリ

一 同盟及聯合國ノ独逸勸告各國トノ平和条約批准關係一件(附)

「ホールト」ハ右來話ノ際本月三日ノ「インデペンデント」ニ掲載セル閣下ノ山東ニ關スル寄稿ハ諸新聞ニモ掲載セラレ時節柄著シク効果アリタリト語レリ

以上ハ条約批准問題ニ關スル其ノ後ノ形勢ノ一斑ナルガ去ル十日「ヴェルサイユ」条約批准手續完了ノ報伝ハルト共ニ米國一般ニ於ケル批准希望熱著シク高マリツツアルト同時ニ政府及反對黨等共ニ内心外國關係ノ蟠リ居ル條約問題ヲ党争ノ具ニ供スル事ヲ欲セズ且大統領ノ所謂(解釈の留保)ナルモノハ抽象の意味ナルヲ以テ自カラ交通ノ道無キニアラザルベク從テ今後民論ノ歸向如何ニ依リテハ或ハ何等カノ折合ヲ見ルニ至ラズトモ限リ難シ目下政府及反對黨トモ互ニ批准拒絕ノ責任ヲ避ケンガ為諸方面ヨリノ問合ニ対シ自党ニ於テ妥協ノ誠意アルガ如ク殊更ニ吹聴スルノ狀無キニアラズ具體的ニ妥協條件ヲ決定スルニ当リテハ大統領及「ロツジ」共ニ其ノ面目上容易ニ從來ノ主張ヲ放棄スルコト能ハザルベシト察セラル

英仏伊ヘ輾電セリ

註 幣原大使來電第九号省略

一一

一九

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各國トノ平和条約批准關係一件(附)

一一 二月五日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

対独平和条約批准問題ニ関シロッジ氏ノ留保
要求ヲ英國側方は認スル如キ報道伝ハリタル
件

第七三号 (二月十二日接受)

条約批准問題ニ関シ先般来十数日ニ亘リ上院両党領袖間ニ
非公式協議会ヲ開キ Preamble 山東留保(原案中「日支
間ニ起ルベキ紛争」ノ「日支間ニ」ヲ削除ス)其他ニ付共
和党側ヨリ若干ノ譲歩ヲナセル処 Johnson, Borah 等硬
派ノ圧迫アリタル為聯盟第十條及「モンロー」主義ニ関ス
ル留保ニ付テハ Lodge ハ一步モ譲ラズ協議会ハ遂ニ中止
トナリ Hitchcock ハ本月拾日ヲ以テ再ビ条約案ヲ上院本
會議ノ議ニ附セン事ヲ提議スベシト言明セルガ宛モ其ノ際
Grey 大使ノ倫敦「タイムス」ニ寄セタル書面當國ニ伝ハ
リ右ハ大体ニ Lodge 留保案ヲ是認スルモノト一般ニ解セ
ラレ當國上下ニ深甚ナル印象ヲ与ヘタリ殊ニ未ダ駐米大使
ノ職ヲ解カレザル Grey 氏ノ右ノ如キ意見發表ハ必ズ予
メ英國政府ノ同意ヲ得タルモノナルベシト一般ニ推測セラ

一二 二三 二〇

ルルノミナラズ當國一上院議員ガ嘗テ「グレー」氏ヨリ内
示セラレタリト称スル同氏宛「ロイド、ジョージ」氏電報
(英國政府ニ於テ「ロッジ」留保案ニ異存ナシトノ趣旨ヲ
述ベタルモノナルガ其真偽ハ明確ナラズ)ナルモノヲ發表
シタル為愈々右ノ感想ヲ強メタルモノノ如ク右英國政府ノ
態度ハ大統領ヲシテ留保ニ反対スルノ口実ヲ失ハシムルモ
ノトシテ反対党ハ極メテ当惑ノ色アリ「ロッジ」ハ此ノ機
ニ乘ジ二月九日条約批准案ヲ本會議ノ議ニ附セン事ヲ提議
スベキ旨ヲ公表セリ他ノ一方ニ於テ政府側諸新聞ハ「グレ
ー」氏ノ好意ハ是ヲ諒トスルモ其ノ論旨ニ反対スルモノ鮮
カラズ國務省ニ於テハ同氏ノ意見發表ニ対シ憤懣ノ状アル
ヤニ伝ヘラル

英仏伊ヘ転電セリ

一三 二月十一日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ロッジ氏ノ平和条約討論復活提議ヲ上院可決
及条約ノ留保案ニ対スル大統領ノ意見ヲヒッ
チコック發表ノ件

第七四号 (二月十八日接受)

九日予報ノ如ク Lodge ハ上院ニ於テ条約ノ討論ヲ復活ス

ルノ提議ヲ提出シタル処共和党ノ硬派九名ノ反対アリタル
モ政府党ト併セ六十三名ノ多数ヲ以テ可決シ尚前會議ヨリ
効力繼續セル cloture ノ規則ヲ中止スル必要上一応条約
ヲ外交委員會ニ附託シ Lodge 留保案ト併セ更メテ本院ニ
報告セシムルノ決議案同時ニ採用セラレタリ右委員會附託
ハ単ニ形式ニ止マリ別ニ審議ヲ用フルコトナク条約及既成
留保案ヲ其ノ儘直ニ報告スルニ過ギザルベキモ cloture
ノ効力除カレタル結果硬派議員ヨリ種々根本的修正案ノ提
出ヲ見ルベシト予期セラル將又 Hitchcock ハ去ル七日大
統領ヨリ一月二十六日附ヲ以テ民主黨上院總會ニ送レル書
面ヲ發表セルガ大統領ハ該書面ニ於テ現議會再修正ニ
Hitchcock ノ提出セル五ヶ条留保案(客年往電第八二一
号)ヲ是認スル旨言明スルト共ニ聯盟第十條留保ニ関シ合
衆國ハ斯ク斯クノ義務ヲ負ハズト云フハ如何ニモ米國ガ義
務ヲ逃レントカムルガ如キ感想ヲ与フルヲ以テ不可ナリト
述ベ脱退ノ通告ハ joint resolution ニ依ルヲ要ストシ委
任統治ヲ受諾スルニハ議會ノ直接權限及行為ニ基クベキ旨
ヲ明ニ断ルハ差支ナシト論ゼリ

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各國トノ平和条約批准關係一件(附)

英仏伊ヘ転電セリ

一四 二月十七日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國上院ニ於ケル平和条約批准問題討論ノ最
近ノ形勢報告ノ件

第七八号 (二月二十四日接受)

當國上院ニ於ケル平和条約批准問題討論ノ最近形勢左ノ如
シ

一、聯盟規約第十條ニ關スル留保案ハ依然批准問題進行ノ
最大難関ニシテ目下兩党ノ論争ハ殆ド此一点ニ集注スルノ
状アリ「ロッジ」ハ客年十一月上院全院委員會ノ採用セル
留保案(客年十一月二十二日附公往第五四九号)ヲ今尚固
執スルモ同案ニ依ル時ハ右第十條ニ基ク積極的行動ノ義務
ハ兵力ノ使用ノミナラズ單純ナル德義上ノ性質ヲ有スルモ
ノト雖一切之ヲ否認スルコトナルガ故ニ「ヒッチコッ
ク」ニ於テハ断然同案ニ不同意ヲ唱フルト共ニ別電第七九
号(a)及(b)ノ二案ナラバ其ノ何レニテモ之ニ同意ス
ベキ意嚮ヲ示セリ然ルニ「ヒッチコック」ノ支持スル二案
ハ共ニ「ロッジ」ノ曩ニ絶對的ニ拒絶セル処ニシテ結局党

一四 二二

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各國トノ平和条約批准關係一件(附)

妥協ノ基礎ヲ発見スルコトハ未ダ成算ナキモノノ如シ
二、今ヤ大統領ハ「ランシング」ノ職ヲ免ジテ自ラ直接ニ
百般ノ政務ヲ処理スルノ意ヲ示シ然シテ条約批准留保案ノ
各項ニ対スル大統領ノ具體的意見ハ未ダ明カナラサルモ同
氏ノ性格ガ概シテ妥協讓歩ニ反対スルノ傾向アルハ否ム可
カラズ他ノ一方ニ於テ「ボーラー」、「ノックス」等本条
約ノ全体ニ対スル極端ノ反対意見ヲ有スル一派ハ今後モ批
准問題ノ進行ヲ阻害スルニ努ム可シト雖近來上院議員一般
ニ条約ノ討議ニ倦ムノ色アリ且各方面ヨリ批准速成ヲ強要
スルノ圧力日益々加ハルモノノ如ク從ツテ目下ノ状況ニ
察スルニ若シ一旦前記第十条ニ関スル留保案ノ妥決ヲ見ル
ニ於テハ其他諸項ノ留保案ハ大体曩ニ両党非公式協議会ニ
於テ一応協議ヲナセル成案ヲ基礎トシテ迅速解決ニ至ルノ
徴ナキニ非ズ

三、山東条項留保案ニ就テハ過般兩党非公式協議会ニ於テ
「ロッジ」原案ノ後段ニ(該条項ニ依リ日支兩國間ニ發生
スル事アルベキ爭議ニ関シテハ全然行動ノ自由ヲ留保ス)
トアル字句中(日支兩國間)ノ語ヲ削除シ本項留保案ノ全
文ハ別電(c)ノ通トナレリ

國中三国ガ公文ヲ以テ右批准ノ条件タル留保ノ各項ヲ承諾
スルコトニ依リ效力ヲ生ズル旨ノ文句アリタルガ兩党非公
式ノ協議会ノ結果之ヲ修正シ別電ノ通り重ナル聯合國ニ於
テ特ニ米國ノ留保ニ対スル異議ヲ表示セザル時ハ該留保承
認セラレタルモノト見做スコトナレリ此修正案ニ依ル時
ハ例ヘバ日本ガ米國ノ山東留保ニ対シ異議ヲ表示スルコト
アリトセバ之ガ為米國ノ批准ハ其效力ニ如何ナル影響ヲ受
クベキヤ明瞭ナラズ或ハ米國批准ノ全体ガ效力ヲ失フモノ
トモ解セラルベシ何レニスルモ米國ガ留保条件付ニテ条約
ヲ批准シタル場合ニ日本ヨリ其留保ノ一部又ハ全部ニ異議
ヲ唱フル權利アルコトハ云フヲ俟タズト雖目下歐洲諸國ニ
於テ米國ノ批准ヲ渴望シ留保条件付タルト否トヲ問ハザル
ノ狀アルノミナラズ米國輿論ノ大勢モ批准ノ速成ヲ要求ス
ルニアルガ故ニ若シ日本ノミ米國ノ留保ニ異議ヲ唱ヘ為ニ
米國ノ批准ヲ無効ニ歸セシムルガ如キ結果ヲ見ルニ至ラバ
日本ハ列國ニ対シ重大ナル責任ヲ負担スルコトナルベシ
ト思考ス

英仏伊ヘ転電セリ

註 別電第七九号記録ニ存セズ

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各國トノ平和条約批准關係一件(附)

一四

二二

右國名ノ指示ヲ刪除セルハ之ニ依リテ幾分日本ノ感情ヲ緩
和センガ為ナリト伝ヘラルルモ趣旨徹底セザルノミナラズ
却テ山東条項ニ基ク爭議ハ日獨間ニ發生スルモノト雖米國
ニ於テ行動ノ自由ヲ留保スルノ論結トナリ一層日本ニ不利
ナル修正案ト謂ハザル可カラズ然ルニ「ロッジ」等ハ本条
項ニ関シ嚮ニ激烈ナル攻撃ヲ日本ニ加ヘタル行掛リニ顧ミ
今更態度ヲ一変シテ留保案ノ撤回又ハ全然日本ノ誠意ニ信
頼スルノ趣旨ヲ示ス修正ニ同意ヲ表スル事ハ到底望ミ難カ
ルベク將又大統領ハ山東条項ニ就テハ元來自分モ充分満足
セザルモ周囲ノ事情止ムヲ得ザルモノアリタル為終ニ贊成
セルモノナリト云フガ如キ弁解ヲ屢々与ヘタル事アリ之又
「ロッジ」留保案ノ撤回又ハ根本的修正ヲ強要スルノ熱心
アルモノト期待スル事能ハズ只「ヒッチコック」ハ日本ニ
好意ヲ寄せ非公式協議会ニ於テ百方「ロッジ」案ノ緩和ニ
努力セル由ナルモ「ロッジ」ノ強固ナル反対ニ遭ヒタルモ
ノノ如ク恐ラクハ之ガ為批准問題全体ノ不成立ヲモ賭シテ
力争セントスルノ決心ナカルベシト察セラル
四、之ニ関連シテ注意スベキハ米國批准案(プレアンブ
ル)ノ規定ニシテ即チ其原案ニハ米國ノ批准ハ重ナル聯合

一五 三月四日

在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

平和条約批准ニ関シ山東条項留保案ヲ米國上
院可決ノ件

第一一五号

(三月五日接受)

上院ニテハ昨三日ヨリ山東条項留保案ニ付討議シ本日二対
六九ノ多数ニテ往電第七九号(c)案ノ通可決セリ

註 二月二十三日幣原大使發公第二三三三号ニ依レバ右山東条項留
保案ハ左ノ通

The United States withholds its assent to
Articles 156, 157, and 158, and reserves full
liberty of action with respect to any controversy
which may arise under said articles.

一六 三月十七日

在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國上院ニ於テ平和条約第十條留保案可決ノ件

第一三三三号

(三月十九日接受)

上院ニテハ兩三日前ヨリ条約批准ノ最難關タル第一〇条留
保案ニ付討議ヲ開始シタルガ十六日二十六(全部民主党)

一五

一六

二三

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各國ノ平和条約批准關係一件(附)

二四

對五十六(四十二共和党十四民主党)ノ多数ヲ以テ左記ノ
通可決セリ

The United States assumes no obligation to preserve territorial integrity or political independence of any other country by employment of its military or naval forces, its resources of any form of economic discrimination or to interfere in any way in controversies between nations including all controversies relating to the territorial integrity or political independence, whether members of the League or not, under provisions of Art. X, or to employ military or naval forces of the United States, under any Art. of the Treaty, for any purpose, unless in any particular case the Congress, which under the Constitution has sole power to declare war or authorize employment of military or naval forces of the United States, shall, in exercise of full liberty of action by act or joint resolution, so provide.

一七

右採決ニ先ダチ「ヒッチコック」ハ同案ニ對スル大統領ノ
意見ヲ書面ニテ問合ハセタルニ大統領ハ其一端ニ簡單ニ
unacceptable ト記シ返答シタリトノコトナルニ拘ラズ民
主黨員中十四名ノ賛成者ヲ見ルニ至レリ

~~~~~

一七

三月十七日  
在米國幣原大使ヨリ  
内田外務大臣宛(電報)

ロッシ案留保附平和条約批准問題ノ形勢ニ付  
注意ヲ要スベキ諸点報告ノ件

第一三四号

(三月十九日接受)

平和条約批准問題ニ付テハ一方ニ於テ大統領ハ曩ニ一切条  
約規定ノ内容ニ變更ヲ求タスガ如キ留保ヲ承認セザルノ意  
ヲ示シ他ノ一方ニ於テ「ロッシ」等共和黨員ノ多数ハ上院  
ノ権能及米國ノ立場ヲ保全スルノ趣旨ニ依リ幾分条約規定  
ノ内容ヲ變更スルノ留保ヲ必要ナリトシ併モ双方共上院ニ  
於テ三分ノ二ノ多数ヲ制セザルガ故ニ結局民主党員ノ結束  
鞏固ナル限り「ロッシ」案ノ留保附批准ヲ見ルノ望無キハ  
往電第一一号中ニモ稟報シ置キタルガ爾來形勢ノ發展ヲ觀  
察スルニ左記ノ数点ハ注意ヲ要スルモノト思考ス

一、上院ニ於ケル本問題審議ノ当初ニ於テハ國論ノ大勢ハ  
何等ノ留保ナク又ハ單純ナル註釈の趣旨ノ留保ヲ為シテ批  
准ヲ促成スルニアルモノト認メラレタル処其後「ロッシ」  
等ハ米國人ガ米國主義(americanism)ヲ好ムノ氣風ヲ巧  
ニ利用シ条約ノ規定ガ國際主義(internationalism)ニ偏  
シテ米國主義ニ反スルコトヲ攻撃シ漸次輿論ノ同情ヲ得ル  
ニ至リタルト共ニ大統領近來ノ行動ガ往々内外ノ物議ヲ招  
クモノアルハ益々共和党ノ地位ヲ有利ナラシメタルモノノ  
如ク今日ニテハ單純ナル註釈の趣旨ノ留保ヲ以テ満足セザ  
ル者著シク増加セルノ状アリ

二、今や実業家方面ヨリスル批准促成ノ圧力ハ日々ニ加ハ  
ルニ當リ大統領ニ對スル信望ハ民主党内ニ於テモ漸ク動搖  
ノ傾向アリ昨年十一月上院ニ於テ民主党委員中条約第十條  
ニ關スル「ロッシ」留保案ニ賛成セル者四、五名ニ過ギザ  
リシニ反シ往電第一三三号ノ通今回ノ採決ニ際シテハ同一  
趣旨ノ留保案ニ賛成セル民主黨員十四名ニ激増セリ追テ批  
准ノ可否ヲ決スル最終採決ノ場合ニハ民主黨員中「ロッ  
シ」ト行動ヲ共ニシテ同氏案ノ諸留保附批准ニ賛成スル者  
尚一層増加スルノ徵無キニアラズ

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各國トノ平和条約批准關係一件(附)

一八

二五

三、共和黨員中ニモ「ボラー」「ノックス」等所謂極端非  
妥協派(irreconcilables)アリ該一派ハ「ロッシ」留保  
案ニ賛成スルト共ニ此ノ留保ノミヲ以テ満足セズ別ニ条約  
全体ニ涉リテ異議ヲ有スルモノニシテ民主黨員中之中ト行動  
ヲ共ニスルモノ二三名アリ全院中六、七名ニ上ルヲ以テ其  
ノ向背ハ批准ノ可否ヲ決スル最終採決ニ當リ重大ナル影響  
ヲ有ス

目下一般ニ予測セラルル所ニ依レバ大統領ノ指揮ニ服スル  
民主黨員ハ「ロッシ」案留保付批准ニ反對スルニ當リ右極  
端派ノ援助ヲ受クベキヲ以テ該批准案ハ結局否決セラルル  
ニ至ルベシト云フ尤モ前項ノ如ク昨今民主黨員ノ結束鞏固  
ヲ欠クノミナラズ極端派今後ノ行動ハ猶不明ニ屬スルモノ  
アリ未ダ俄ニ批准案ノ前途ヲ予断スルコト能ハズ

~~~~~

一八

三月十九日
在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國上院ニ於テ平和条約批准案ニ關スル留保
案及其修正案ノ審議ヲ無期延期ニ決シタル件

第一三九号

(三月二十一日接受)

三月十六日上院ニ於テ平和条約批准ニ關スル留保案討議中

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件(附)

「オクラホマ」選出民主党議員「オーエン」ハ「米國ハ条約ノ第四編第六款ニ述ベラレタル保護權ハ戰時中埃及ノ領土保全及獨立ヲ保護スル為ノ戰時施設ニ過ギザルモノト了解ス」ト云フ留保案ヲ提出シタルガ之ニ関シ「テネシー」選出民主党議員「シールズ」ハ「米國ハ民族自決主義實施上英國ハ直ニ愛蘭ノ獨立ヲ承認スルモノト了解ス」ト云フ趣旨ノ修正案ヲ提出シ「コロラド」選出議員「トーマス」ハ更ニ「米國ハ英國及日本ハ夫々直ニ愛蘭及朝鮮ノ獨立ヲ承認スルモノト了解ス」ト云フ修正案ヲ提出シタル処同日及翌十七日ニ亘リ長時間ノ討議行ハレタル結果「ミネソタ」選出共和党議員「ケロッグ」ハ前記留保案竝ニ之ニ関スル修正案ヲ一括無期延期ニナスベキ動議ヲ提出シ該動議ハ五四對二一ヲ以テ通過セリ(十九日前一、〇〇)

在米國幣原大使ヨリ
一九 三月十九日 内田外務大臣宛(電報)

對独平和条約ノ各種留保附批准案否決ノ件

第一四二号

(三月二十一日接受)

上院ニテハ三月十九日各種留保附批准案ニ付採決ノ結果贊成四十九反對三十五ニテ三分ノ二ノ多数ニ達セズ該批准案

一九 二〇

二六

ハ否決セラレタリ
英仏伊ヘ転電セリ

在米國幣原大使ヨリ
二〇 三月二十日 内田外務大臣宛(電報)

米國上院ハ對独平和条約批准ヲ拒否シタル件

第一四四号

(三月二十三日接受)

三月十九日条約批准問題ハ愈々最後ノ議題ニ上リ結局十五ヶ条ノ留保(從來ノ十四ヶ条ニ愛蘭獨立ニ関スル留保案附加セラル)附批准案ヲ採決ニ附シタル処既電ノ通贊成四十九反對三十五ニテ条約批准ニ必要ナル三分ノ二ノ多数ヲ得ルニハ尚七票不足ヲ生ジ遂ニ否決セラレタリ前記投票者八十四名ヲ党派別ニ分類スレバ贊成共和党二十八民主党二十一反對共和党十二民主党二十三ナリ尚客年十一月十九日ニ於ケル留保附条約批准案採決ノ際ハ民主党中之ニ贊成シタルモノ七名ニ過ギザリシ処今回ハ二十一名ニ達シタリ前記ノ如ク条約批准ガ遂ニ上院ノ同意ヲ得ルニ至ラザリシ為「ロッジ」ハ直チニ上院書記官長ハ對独平和条約ヲ大統領ニ返還シ且上院ハ憲法上必要ナル多数ヲ得ラザリシ對外条約ノ批准ニ同意スルコト能ハザリシ旨大統領ニ通報スベ

シトノ決議案ヲ提出シ該案ハ四十七對三十七ヲ以テ通過セリ之ニ對シ民主党員「ロビンソン」ハ前記条約批准拒絕ノ採決ヲ再議ニ附スベキ動議ヲ提出シタルモ既ニ一度条約ヲ大統領ヘ返還スベキ決議ヲ通過シタル以上条約ハ最早上院ノ手ヲ離レタルモノナルヲ以テ此際再議ノ動議ヲ提出スルハ議事規則違反ナル説起リ結局議長モ其説ニ同意シタル為「ロビンソン」ノ動議ハ成立スルニ至ラズ最後ニ共和党員「ノックス」ハ自己ノ提出ニ係ル對独宣戰布告ノ合同決議案ヲ廢棄スベキ合同決議案ノ討議ニ移ランコトヲ提議シタルモ之ヲ議スルニ至ラズシテ月曜日迄休会セリ

英仏伊各大使ヘ転電セリ(二十日後六、〇〇)

在米國幣原大使ヨリ
二一 四月一日 内田外務大臣宛(電報)

米國下院外交委員長ガ米独間ノ戰爭狀態終止

ニ関スル合同決議案ヲ提出ノ件

第一六二号

(四月六日接受)

上院ノ条約批准拒絕後大統領ハ緘黙ヲ守リ一方「ノックス」ノ平和宣言決議案ハ未ダ何等進行ヲ見ルニ至ラザル処

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件(附)

三十一日下院外交委員長「ポーター」共和党ノ議ニ依リテ大要左記ノ如キ合同決議案ヲ提出セリ

(一)米独間ノ戰爭狀態終止ヲ宣言ス

(二)本決議効力發生ノ日ヲ以テ戰爭終止ノ日ト定ム

(三)独逸政府ガ本決議効力發生ノ日より四十五日以内ニ米國大統領ニ對シ米國トノ戰爭終止ヲ宣言セル旨並ニ米國ガ「ヴェルサイユ」条約ヲ批准シタル場合ト同ジク独逸ノ米國ニ對スル各種ノ權利要求ヲ放棄スル旨ヲ通告セザルニ於テハ大統領ハ其ノ旨ヲ告示スベク而シテ大統領ガ独逸ヨリ如上ノ通告ヲ接受セル旨ヲ告示スル迄ハ大統領ノ許可ナクシテ独逸ト通商ヲ行ヒ又ハ直接間接ニ金融上財政上ノ援助ヲ為スコトヲ禁ズ

(四)本決議ハ米國ガ休戰条約ニ依リ並ニ參戰ノ結果トシテ取得シ又ハ保有スル各種ノ權利利益ヲ放棄シタルモノト解スベカラズ

本案ハ來週中ニ下院ヲ通過シ上院ニ回附セラルベシト予期セラレツツアルモ民主党ハ本案ヲ以テ憲法違反ナリト為シ又仮令議會ヲ通過スルモ大統領ニ於テハ之ヲ veto スベク而シテ三分ノ二ノ多数ヲ以テ veto へ overrule スルコト

二一

二七

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各国トノ平和条約批准關係一件(附
ハ不可能ナリト伝ヘラル (一日午後十一時三十分)

(終)

二二 四月十日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國下院ニ於テ米独逸戰爭終止ノ合同決議案
通過ノ件

第一八三号 (四月十二日接受)

往電第一六二号平和宣言決議案二四二対一五〇ヲ以テ九日
下院ヲ通過シ上院ニ回附セラレタリ民主党員ニシテ本案ニ
賛成セルモノ二二共和黨員ニシテ反対セルモノ二ニシテ兩
黨員ノ「ペーヤ」一三ナリ(十日正午十二時)

二二 五月一日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國上院委員會ニ於テ米独逸及米獨逸國間ノ
戰爭終止ニ關スル合同決議案通過ノ件

第二二二号 (五月三日接受)

往電第一八三号下院ヲ通過シタル平和宣言合同決議案ノ代
案トシテ Knox ガ起草シタル合同決議案三十日上院委員

二二 二二 二八

会ニ上程九対三ヲ以テ通過セリ(賛否全然党派別)其要領
左ノ通

(一)對独逸戰ノ決議ヲ取消シ独逸米間ノ戰爭狀態終止ヲ宣言ス
但シ独逸政府ニ於テ追テ米國政府ト条約ヲ締結シ米國人ガ
戰爭ニ依リ受ケタル各種ノ損害要償ヲ承諾シ米人ニ對シ通
商航海住居其他各般ノ最惠國待遇ヲ与ヘ米國政府ガ行ヒタ
ル没収其他懲罰的科料ヲ認諾シ且右条約ノ効力發生前ニ生
ジタル事件ニ付米國ニ對シ何等ノ金錢上ノ要求ヲ放棄スベ
キ旨ヲ約スル迄ハ現ニ米國官憲ノ所有又ハ支配ニ歸シ居ル
独逸政府及國民ノ財産ハ其儘之ヲ保管ス以上ノ目的ヲ達シ
且兩國間ニ完全ナル友好關係ヲ確定スル為直チニ独逸政府
ト交渉ヲ開始センコトヲ大統領ニ求ム

(二)「戰爭終止ノ日」ニ關スル法律規則ノ解釈ニ付テハ其規
定ノ如何ニ不拘本宣言ノ効力發生ノ日ヲ以テ戰爭終止ノ日
トナス

(三)条約又ハ合同決議ニ依リテ異リタル決定ヲナスニアラザ
レバ米國ハ「ヴェルサイユ」ノ条約ヲ批准セザリシト雖休
戰條約ニ依リテ取得ノ權アル權利利益並「ヴェルサイユ」
條約ノ規定ニ依リ主タル聯合國ノ一員トシテ取得シ得ベキ

利益ハ之ヲ放棄セズ

獨逸地利匈牙利國ニ對スル宣戰ノ決議ヲ取消シ兩國間ノ戰
爭狀態終止ヲ宣言シ大統領ニ對シ兩國間ノ完全ナル友好通
商關係ヲ確定スル為直チニ獨逸並獨逸兩國政府ト交渉ヲ開
始センコトヲ要求ス

英仏独伊ヘ電報セリ (一日後七、三〇)

二四 五月十五日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

上院委員會通過ノ戰爭終止合同決議案ハ上院
本會議ニ於テ修正ノ上通過ノ件

第二四九号 (五月二十二日接受)

往電第二二二号合同決議案第一項末段及第四項ニアル大統
領ニ對シ獨逸洪各國政府ト交渉ヲ開始セムコトヲ要求スノ
文句ハ十三日「ロッシ」ノ提議ニ依リ削除セラレ十五日採
決ノ結果四十三対三十八ヲ以テ上院ヲ通過シ來週兩院協議
会ニ附スル予定ナリ(十五日後六、〇〇發)

英仏独伊ヘ電報セリ

二五 五月二十八日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

米國大統領議會ノ平和決議案ヲ否認シ其理由
説明ノ教書ト共ニ下院ニ回附ノ件

第二七三号 (五月三十日接受)

大統領ハ平和決議案ヲ否認シ二十七日大要左ノ如キ教書ヲ
附シテ下院ニ回付セリ

予ハ本決議案ニ調印シテ米國ノ名譽ト武勇トニ拭フベカラ
ザル汚点ヲ印スルノ責ヲ分ツ事ヲ得ズ我參戰ノ動機ハ敵國
ガ文明ト人權トヲ脅カシタルニ依ル然ルニ本決議案ハ吾人
ガ聲明シタル戰爭ノ目的ヲ達シ得ズシテ独逸ニ對スル米國
ノ權利ヲ全然放棄スルニ齊シ又上院ガ「ヴェルサイユ」条
約ノ批准ヲ拒絕シタル事實及其ノ拒絕ノ方法ハ結果ニ於テ
米國ハ世界列國ト離レテ只單リ自國ノ目的ト利益トノミヲ
追ハントスルコトヲ聲明セルニ同シ吾人ガ參戰ノ當時各國
共同ノ利益ヲ防護セント公言シタルニ不拘本決議案中ニハ
何等軍備制限、海洋自由、白耳義ノ權利保障、仏國ノ損害
補償及前土耳其領基督教民ノ解放等其ノ他將來独逸ノ強暴
防止ニ備フヘキ何等列強間ノ諒解ヲ含マズ斯ノ如キ吾重要

一 同盟及聯合國ノ独逸勃各國トノ平和条約批准關係一件(附)

二四 二五 二九

ナル利益ヲ保障セザル対独平和ノ樹立ハ想像シ難キ所ニシテ是レ米國ノ威信人民ノ權利自由文明ノ基礎条件ト相容レザルモノナリ以上ハ予カ本決議案ニ調印セザル理由ヲ説明スルニ充分ナリト思考ス

(五月二十八日午後六時)

二六 十一月二十四日

在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

平和条約批准問題ニ關スル米國ノ態度予測ニ

關スル件

第五九一号

(十一月二十四日接受)

条約批准問題ニ關スル米國結局ノ態度如何ハ未ダ容易ニ予測シ難キモ形勢ノ大要御參考迄ニ電報ス

(一)「ハーディング」ノ智囊ト称セラルル Daugherty ハ二十二日「ハーディング」ガ予テ声明セル通國內ノ優秀ナル知識ヲ集メテ國際組織問題ヲ討議スルヲ Taft, Hughes, Root, Lodge, News, Knox, Wickersham, Johnson, Borah, Lenroot, Poindexter 及民主党ノ Pomerene Reed, Shields 等 Marion ニ招ケル事ヲ發表セリ(右ノ外 Hoover 其ノ他数名ノ参加ヲ見ルベク期日ハ来月十日

頃ナルベシト云フ)本会合ノ目的ハ勿論共和党内ノ意見ヲ纏メントスルニアリ而シテ若シ其ノ意見一致ヲ見ルニ於テハ上院ガ是ヲ重ンズベキハ想像ニ難カラザル所ニシテ米國ノ態度茲ニ決セラルベキカトモ考ヘラル

(二)条約極端反対派ハ依然トシテ单独講和論ヲ囁シテ飽迄モ現条約反対論ヲ唱ヘントスル形勢ヲ示シ最近其ノ結束ヲ固メントスル運動ヲ開始セリト伝ヘラレ(新上院ニハ極端反対論者二十三名アルベシト云フ)共和党ノ中心勢力タル Root, Taft, Wickersham, Hughes 一派ハ第十条ノ末節及「モンロー」主義ノ留保ヲ主ナル条件トシテ聯盟加入論ヲ唱ヘ單獨講和ノ実行シ得ベカラザルヲ極論スベキモ「ハーディング」ハ結局 Lodge ヲシテ中間論ヲ唱ヘシメ兩派ノ妥協ヲ計ラシメントスルニアラザルカト想像セラル

(三)(脱)有力者ノ意見トシテ伝ヘラレタル仏國ノ態度及 Geneva ニ於ケル Robert Cecil ノ演説ハ聯盟加入論ノ有力ナル声援トナリ League to enforce peace 及所謂國際的財業者団ハ大イニ氣勢ヲ得テ活動ヲ開始シタルモノノ如ク紐育「タイムズ」「イヴニング、ポスト」等ノ有力ナル新聞モ「欧州ハ米國ノ操縦スルガ儘ニ聯盟規約ヲ修正

シテ米國ノ加入ヲ希望ス」トノ説ヲ為スニ至リ条件附聯盟加入論漸ク声ヲ高メントスル形勢アリ

四)大統領ガ十二月ノ議會ニ再ビ批准案ヲ提出スベキカ否カハ疑問ナルモ提出スベシトノ説ヲ為スモノ不尠而シテ大統領ハ既ニ所謂 solemn referendum ニ依リ國民ノ意向ヲ

知りタル以上聯盟ニ關シテハ任意上院ノ決定ニ委シ以テ対独平和關係ノ回復ヲ計ラントスル方針ニ出デザルヤト推スル向モアリ